

病院機構だより

地方独立行政法人府中市病院機構

令和3年度事業報告

全体的な状況

令和3年度の経営成績は、1億200万円の黒字決算となりました。

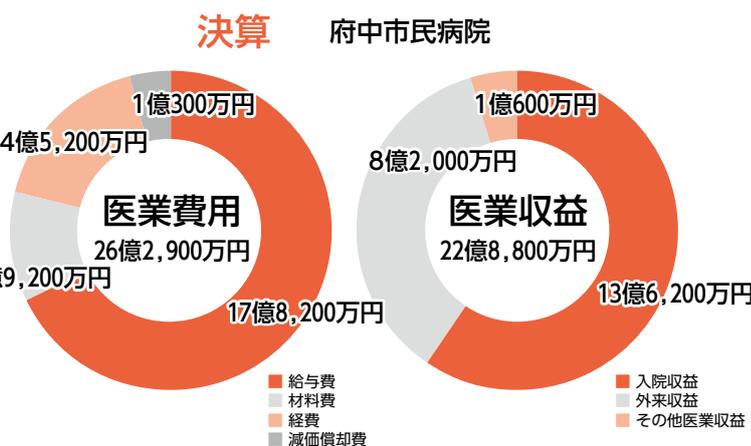
◎府中市市民病院

入院収益500万円減、外来収益6,100万円増となり、新型コロナウイルス対策関連の補助金1億5,500万円もあり、赤字額は前年度比較で2億1,500万円減少しました。府中市市民病院は、新型コロナウイルス禍に対応するための必要な診療制限をしながらも、地域の公的医療機関としての役割を果たしつつ経営改善に努めました。

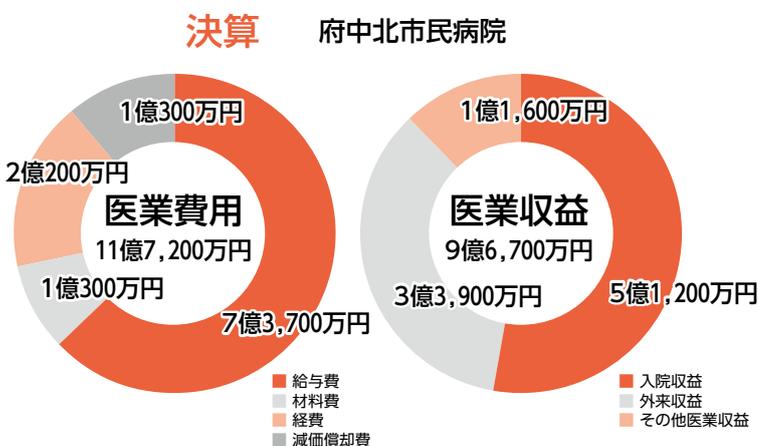
主な購入機器

マンモグラフィ―システム、臨床化学自動分析装置、セントラルモニタ、超音波診断装置、上部消化管汎用ビデオスコープ、ラジオメーター血液ガスシステム

購入経費 7,680万円



◎府中市市民病院
入院収益1,100万円減、外来収益600万円増でしたが、訪問介護看護やサービス付き高齢者向け住宅の事業収益が900万円増となり、新型コ



ロナ対策関連の補助金2,500万円もあり、赤字額は前年度比較で1,400万円減少しました。府中北市民病院は、上下地域で病床を有し、また在宅支援ができる医療機関として、今後とも地域の皆さんの生活を支えます。

主な購入機器 セントラルモニタ、屋上防水工事 4,795万円

内視鏡、外科学用X線イメージ装置 4,437万円

購入経費 4,437万円

問い合わせ先

地方独立行政法人府中市病院機構事務局 (☎4513300)

令和3年度事業報告への市の評価

▽未だ引き続き新型コロナウイルス感染症の流行下において、両病院とも公的病院としての役割を認識し、その責務を果たしている。

▽経営面では、約1億200万円の黒字決算となった。感染対策の徹底や、病院運営上困難な状況などの課題がある中で、使命感をもって仕事をしていただいた病院職員の経営努力の賜物である。

▽府中市市民病院では、外科へ2名の常勤医師、内科に医師1名が新たに着任し、独法化以来最も多い常勤医師数となった。また、府中北市民病院では眼科の診療開始など、着実に医療提供体制の整備が図られつつあり、両病院における市民の安心・安全につながる持続可能な医療提供体制が構築されることを期待する。

▽ICT技術を活用した新たな診療形態として、両病院でオンライン診療の促進に取り組みされている。オンライン診療についての試行・課題の検証を行いながら、引き続き促進に取り組みきたい。